

I Tサービス・ソフトウェア

1. 評価対象企業（10 社）

日 鉄 ソ リ ュ ー シ ョ ン ズ 、 T I S 、 野 村 総 合 研 究 所 、 オ ー ビ ッ ク 、
ト レ ン ド マ イ ク ロ 、 オ ー ビ ッ ク ビ ジ ネ ス コ ン サ ル タ ン ト 、 大 塚 商 会 、
B I P R O G Y 、 N T T デ ー タ グ ル ー プ 、 S C S K

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	1	15
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	5
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 18 名（所属先 18 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目分野のうち主に **ESG 関連**項目の内容・配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、69.8 点（昨年度 70.2 点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は 14.0 点（昨年度 14.1 点）となった。なお、個社で見ると、日鉄ソリューションズ（+8.8 点）、BIPROGY（+4.5 点）の上昇が目立った。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 67%（昨年度 68%）、**説明会等**が 76%（昨年度 72%）、**フェア・ディスクロージャー**が 75%（昨年度 77%）、**ESG 関連**が 65%（昨年度 66%）、**自主的な情報開示**が 75%（昨年度同率）となった。
- ③ 評価項目について見ると、全 11 項目のうち平均得点率が 80%以上のものはなく、8 項目が 70%台となった。そのうち、最も高い平均得点率は、次の**説明会等**の項目であった。

- ・ 「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか」（平均得点率 78%〔昨年度 73%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台 1 社・70%台 5 社・80%台 4 社）

④ 一方、経営陣の IR 姿勢等の中の次の 1 項目は、昨年度に比べ、平均得点率が下がった。評価対象企業間の得点較差が大きく、下位評価企業の経営陣には、IR 活動への積極的な取組みを強く求めたい。

- ・ 「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか」(平均得点率 50% [昨年度 55%]) (得点率: 20% 台 2 社・30% 台 2 社・40% 台 2 社・50% 台 1 社・70% 台 2 社・80% 台 1 社)

⑤ ESG 関連の 4 項目のうち、下記の 2 項目 ((a) (b)) は、昨年度に比べ、得点率が改善したものの、依然として評価対象企業間の得点較差が大きかった。なお、(d) は平均得点率が 30% 台となり、全 11 項目のうち、最も低い水準であった (新規項目のため昨年度比較は示していない)。

- (a) 「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標 (例えば、営業利益率、ROE、資本コスト等) が、十分に説明されていますか」(平均得点率 73% [昨年度 64%]) (得点率: 30% 台 1 社・40% 台 1 社・50% 台 1 社・60% 台 1 社・80% 台 2 社・90% 台 4 社)
- (b) 「資本政策 (キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策 (配当性向、自社株買い等) に関し十分に説明されていますか」(平均得点率 71% [昨年度 65%]) (得点率: 40% 台 2 社・50% 台 1 社・60% 台 1 社・70% 台 2 社・80% 台 3 社・90% 台 1 社)
- (c) 「非財務情報 (人的資本などの ESG 情報) を統合報告書、ESG 説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値 (KPI)、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていきますか」(平均得点率 67% [昨年度 68%]) (得点率: 40% 台 1 社・50% 台 2 社・60% 台 3 社・70% 台 2 社・80% 台 2 社)
- (d) 「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 34%) (得点率: 20% 台 2 社・30% 台 6 社・40% 台 2 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 野村総合研究所 (ディスクロージャー優良企業 [9 回連続 17 回目])

総合評価点 87.2 点 [昨年度比 -1.8 点]

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 88%)、ESG 関連 (84%) が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位 (100%)、説明会等 (84%)、自主的情報開示 (82%) が同得点第 2 位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」(2 項目) の全ての項目が最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップが IR 活動に積極的に関与しており、市場とのコミュニケーションがさらに強化されたとの声や、財務・非財務含めて充実した説明がなされていることを評価する声が寄せられた。また、バイサイド・セルサイドそれぞれのスモールミーティングが定期的開催されていることを評価する声もあった。IR 部門については、高いクオリティを有しているとの声や、各セグメントの事業説明会の内容を評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合 (合併等を含む)、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」が最も高い評価となった。また、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客の動向などが十分に記載され、費用の主要項目 (労務費、外注費、機器販売原価等) および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」も第 3 位となった。これらに関連して、IR 担当者が広範な質疑に的確かつ迅速に対応していることを評価する声があったほか、説明会におけるスクリプト付き資料等が有益であるとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況 (質疑応答を含む) が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、満点評価となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「ESG に関する情報の開示」が最も高い評価となった。これに関連して、サステナビリティダイアログが有益との声があった。「社外取締役との対話」も最も高い評価となった。また、「資本政策、株主還元策の開示」が同得点第 2 位に、「目標とする経営指標等」が第 3 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、統合報告書のクオリティの高さを評価する声があった。

- ⑥ **自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、不祥事、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は同得点第2位となり、トップとは僅差であった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 T I S （高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、

総合評価点 84.6 点〔昨年度比－1.7 点〕、昨年度第2位〔一昨年度第2位〕〕

- ① 同社は、**説明会等**（84%）、**自主的情報開示**（84%）が第1位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第1位（100%）、**経営陣の IR 姿勢等**（82%）、**ESG 関連**（80%）が第2位となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」（2項目）が、いずれも第2位となった。これらに関連して、経営トップが IR 活動に積極的であり、スモールミーティングなどの対話機会を設けていることを評価する声や、IR 担当者の経験・知見が深いことを評価する声が寄せられた。また、有益な説明会として、モダナイゼーション事業説明会を挙げる声が多かった。
- ③ **説明会等**においては、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客の動向などが十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が同得点第1位となった。また、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」も第2位となった。これらに関連して、説明会におけるスクリプト付き資料等が有益であるとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**の「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、満点評価となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等」、「資本政策、株主還元策の開示」、「ESG に関する情報の開示」および「社外取締役との対話」が、いずれも第2位（同得点第2位を含む）となった。これらに関連して、統合報告書のクオリティの高さを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、不祥事、祥事情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は最も高い評価（昨年度同得点第2位）となった。

同社は、3回連続して第2位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

第3位 S C S K （高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、

総合評価点 78.7 点〔昨年度比－2.9 点〕、昨年度第3位〔一昨年度第3位〕〕

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第1位（100%）、**説明会等**が同得点第2位（84%）、**ESG 関連**が第3位（77%）、**自主的情報開示**が第4位（78%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第5位（66%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」が第3位となった。これに関連して、IR 担当役員とのコミュニケーションを高く評価するとの声があった。「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」は第7位（昨年度第6位）となり、昨年度に比べ得点率が下がった。これに関連して、事業・サービスに関する説明会の定期的な開催や経営トップによる投資家との対話の充実を望む声があった。
- ③ **説明会等**においては、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客の動向などが十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が同得点第1位となった。また、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの

分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」も第3位となった。

- ④ フェア・ディスクロージャーの「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、満点評価となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標等」が最も高い評価となった。「ESG に関する情報の開示」は、第3位となった。これに関連して、サステナビリティ説明会等の内容の評価する声や、統合報告書のクオリティの高さを評価する声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、不祥事、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は、第4位となった。

同社は、3回連続して第3位の評価を受けたので、「**高水準のディスクロージャーを連続維持している企業**」に選定した。

以 上

2025年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (ITサービス・ソフトウェア)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ローシャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位		
			評価項目3 (配点 30点)		評価項目2 (配点 20点)		評価項目1 (配点 15点)		評価項目4 (配点 30点)			評価項目1 (配点 5点)	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位		評価点	順位
1	4307 野村総合研究所	87.2	26.3	1	16.7	2	15.0	1	25.1	1	4.1	2	1
2	3626 TIS	84.6	24.5	2	16.8	1	15.0	1	24.1	2	4.2	1	2
3	9719 SCSK	78.7	19.9	5	16.7	2	15.0	1	23.2	3	3.9	4	3
4	8056 BIPROGY	75.2	19.6	6	15.1	5	15.0	1	21.4	4	4.1	2	6
5	2327 日鉄ソリューションズ	73.5	19.0	7	15.6	4	15.0	1	20.4	5	3.5	8	8
6	4704 トrendマイクロ	72.9	21.5	3	14.7	6	15.0	1	18.0	7	3.7	5	7
7	9613 NTTデータグループ	72.5	20.7	4	13.6	10	15.0	1	19.5	6	3.7	5	5
8	4733 オービックビジネスコンサルティング	55.6	17.3	8	14.5	7	7.0	8	13.2	9	3.6	7	9
9	4768 大塚商会	51.1	16.8	9	13.8	9	0.0	9	17.1	8	3.4	9	10
10	4684 オービック	46.3	16.4	10	13.9	8	0.0	9	12.8	10	3.2	10	11
	評価対象企業評価平均点	69.76	20.20		15.14		11.20		19.48		3.74		

2025年度の具体的評価項目および配点（ITサービス・ソフトウェア）

【評価期間：2024年7月～2025年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点	委員のみ
(1)経営陣のIR姿勢		
・決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10	
(2)IR部門の機能		
①IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	10	
②有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。 【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	10	
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点	委員のみ
①売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。	10	
②顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客の動向などが十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。また変動要因について十分に説明されていますか。	10	
3. フェア・ディスクロージャー（15点）	配点	委員のみ
・四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認ができますか。 [終了後同日中にできる：15点 後日できる：7点 できない：0点]	15	●
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点	委員のみ
(1)目標とする経営指標等		
・中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE、資本コスト等）が、十分に説明されていますか。	7	
(2)資本政策、株主還元策の開示		
・資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか。	7	
(3)ESGに関する情報の開示		
・非財務情報（人的資本などのESG情報）を統合報告書、ESG説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値（KPI）、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていきますか。	12	
(4)社外取締役との対話		
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	4	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	配点	委員のみ
・事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、不祥事、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていますか。	5	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

IT サービス・ソフトウェア専門部会委員

部 会 長	上野 真	大和証券
部会長代理	菊池 悟	SMBC 日興証券
	黒木 文明	ニッセイアセットマネジメント
	桜井 雄太	野村アセットマネジメント
	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
	田中 秀明	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	堀 雄介	みずほ証券

評価実施アナリスト（18 名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	桜井 雄太	野村アセットマネジメント
新井 光樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	高橋 豊	極東証券経済研究所
岩渕 啓介	岡三証券	田中 誓	ゴールドマン・サックス証券
上野 真	大和証券	田中 秀明	モルガン・スタンレー MUFG 証券
大浦 裕太	第一生命保険	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	原田 大輔	QUICK
菊池 悟	SMBC 日興証券	堀 雄介	みずほ証券
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
黒木 文明	ニッセイアセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。